

瓦谷山



瓦谷山だより



vol.29

発行日 2015年7月吉日
発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://sankoji.cocolog-nifty.com/news/>

ごあいさつ

本稿を執筆している今、真光寺は紫陽花の季節を迎えています。参道には主に真っ白な花が咲くアナベルを植えました。大きく育って新緑との対比が清々しく、梅雨どきの楽しみとなりましたが、境内全域となると、まだまだといったところです。縁の会の皆様による「紫陽花の会」のご協力も得てあじさい寺を目指していますが、年月をかけ、相当の根気と努力をもって続けなければ、美しい景観は作ることができないのだと思います。

さて真光寺では、新駐車場や道路の拡幅工事等を終了し、現在新書院及び新庫裡の建設を推進し、年内には完成する予定です。限られた資金の中での工事ですので、外構は住職、職員による自主施工となります。観音堂の後ろには池を配し、新しい建物までは回廊スロープでつながる予定ですが、具体的な完成時期は、現時点ではまだわかりません。さらには境内中央の池の改修工事、薬師堂、鐘楼堂、開山堂などの建設の計画も練っています。いずれにいたしましても皆様に安全かつ便利にお参りしていただけるよう、伽藍全体の調和をはかりつつ、山内一同努力を重ねていきたいと思っております。

こちらでもこの季節の恒例となった感もあるスズメとツバメの戦いですが、今年も激しく展開されています。初年度はツバメの巣をスズメが襲ったところ、ツバメは仲間を集め、スズメの巣を二回にわたって破壊し、返り討ちに遭った一匹のスズメが死んでしまいました。次の年はツバメが知恵を働かせ、足場のない電灯の上に巣を作り、見事子育てに成功しました。その次の年もツバメが大挙して真光寺に来て多くの巣を作り、子供たちが巣立っていききました。

今年は四月早々からツバメがやってきて、電灯の上に巣を作り始めましたが、驚いたことにツバメが作った巣の土台にスズメが藁を詰め込み、自分の巣にしようとしているのです。しかし樹木葬墓地で虫を食べて太ったスズメがツバメの巣をねぐらにするのはあまりにも無謀でした。強度不足でやがて底に穴が開き、卵もろとも巣が落下してしまっただけです。五月、六月も数組のツバメが来訪し巣作りを始めましたが、こうした戦いが繰り返されたあげく、すべての巣が落ちてしまいました。巣が卵やヒナごと落ちるのを見ると

かわいそうに思うのですが、これが自然の厳しさということなのでしょう。四年間の観察で、自分なりの結論を得ることができました。自然とつながりながら田畑を耕していた里山の生活が、消費を中心とした生活スタイルへと変化し、また昔ながらの開放的な造りの家も、高断熱・高密閉の現代住宅に取って代わられたことで、ツバメもスズメも巣作りに適した場所を見つけづらくなった、つまりは住宅難であると気がついたのです。数年前、スズメを見かけなくなったという話をよく耳にしましたが、深い軒の下に木組みが配された真光寺の伝統建築は、彼らの巣作りに最適なのでしょう。仏殿の屋根で繁殖したスズメが境内をわがもの顔に飛び交う様子を見て、「いったいこの話だろうか」と首をかしげていたことを思い出します。

自然は無為なものです。スズメやツバメの営みも、無為自然の中で行われています。有為である人間はそれを見て、「スズメが仕返しに来た」とか「ツバメが知恵を使った」とか、さまざまに意味づけをしようとします。今回のツバメもスズメも時が来て繁殖しようとしていた、その場所が重なっていただけのことだったと気づきました。残念ながら、人は無為に生きることができません。私たちは関係性の中に生きています。しかし無為自然から学ぶことはできません。本来無為の自己を見つめ、関係性の中で右往左往しない生き方を考え、また自分と他人の境界を無為に見つめることで、生き方を変えていくことができるのです。

有為なる自己はとても愛おしく大切なものですが、無為の世界に身を置き、自己と他人を隔てないようにしてみると、私が愛おしいように他人も愛おしくなります。それをさらに家族や、社会、世界に広げて見ることができ、正しい生き方とはどのようなものかということのヒントを得ることができます。五感を開き、不自由に身をゆだねる「坐禅」とは、有為でしか生きられない人間が無為なる生き方を体験することにより、自己の生き方を見つめる修行だと思っています。真光寺では、毎月七日法要の午後、坐禅の機会を提供しております。ぜひ一度ご参加下さい。

お盆の季節を迎えます。山内一同、皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

行事報告

◇葬儀セミナー

三月二十一日、縁の会春彼岸法要に引き続き、午後からは葬儀社 慈晃の社長である松田氏による葬儀セミナーを行いました。いざ、という時に備えご葬儀までの流れや、実際に掛かる費用などの説明があり、終了後には、個別での相談会を致しました。今後もお彼岸時期に開催して参りますのでどうぞご参加下さい。



葬儀セミナーのようす



春彼岸法要にて法話（住職）

◇七日法要《植樹祭》

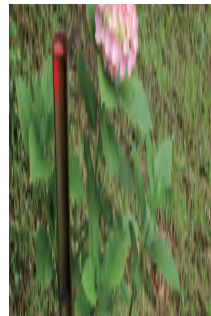
四月の七日法要は授戒式・月例供養の後、午後には年に一度の植樹祭を行いました。今年は、住職自ら東金の樹木専門卸店まで買付に行き、二十七種類、五十本を植栽しました。森の苑第三期区画も賑やかな樹木葬墓地になることでしょう。



植樹祭のようす

◇紫陽花の参道造り

四月二十七日に行われた紫陽花の参道造りは、約五十本の植樹を行いました。境内中腹の調整池の周りに植え、六月にはほとんどの苗が花を咲かせました。昼食の精進カレーもご好評です！今後も紫陽花寺を目指し活動してまいりますのでご協力お願い致します。



◇季節の変遷《森の苑》

森の苑入口の写真です。三月、冬の裸木から五月、新緑を纏い緑溢れる樹木葬墓地へと変わりました。ほんの一年でも木々たちは大きく成長いたします。どうぞ境内の四季を眺めにいらして下さい。



3月28日撮影



5月10日撮影

昼食の献立（聖典講読の会）

- ・古代米たけのこごはん
- ・わらびと茗荷茸の吸い物
- ・焼き物 たけのこ、厚揚げ 禅寺の味噌掛け
- ・煮物 牛蒡、小松菜、人参、椎茸、筍
- ・海苔の佃煮
- ・香の物

《禅寺の味噌》

材料：赤味噌、白味噌、みりん、砂糖

- ①みりん100ccを鍋で煮切る。
- ②弱火にして赤味噌：白味噌＝8：2の割合で少しずつ溶いていく。
- ③甘さを調節しながら砂糖を加える。
- ④②、③を繰り返しながら味噌の堅さを見て、堅ければ砂糖を足し、柔らかすぎれば味噌を足す。
- ⑤味噌は冷めれば堅くなるので、少し柔らかいくらいで仕上げると良い。

これからの季節キュウリや、揚げ茄子に添えれば絶品です。また、この味噌を元に、鷹の爪とごま油を使えば味噌炒めにも、さらに山椒を加えれば四川風麻婆豆腐にも大変身。ぜひお試しください。



新書院建設報告

今年の三月から、観音堂の奥に新しい書院の建設が始まりました。寺報やホームページを通じて、工事の進捗状況をお知らせしていきます。

現在は一階部分のコンクリート工事が行われています。前回の寺報でもお伝えしましたが、新しい書院は二階建てになります。一階はコンクリート造、二階は木造という、混構造です。二階建てなので、観音堂や現在の書院と同じ高さに一階を建設すると完成時の高さが高くなりすぎてしまい、伽藍全体のバランスがおかしくなってしまう可能性があります。幸いにして、新書院を建設する現場は周囲の地盤より少し低くなっているところに位置しているため、1階部分を半地下のようにすることで地上部分の高さを抑え、伽藍全体のバランスを取ることができました。半地下にするということは土の圧力を壁で受け止めなければならぬので一階部分はコンクリート造になっています。

また、伽藍全体の統一感を出すため、仕上げは打ち放しコンクリートということにしました。真光寺の伽藍を見ていただくと、お堂を支えている部分は全て打ち放しコンクリートで仕上げています。後からタイルや石材を貼ったり、ペンキを塗ったりという手間はないのですが、打ち放し仕上げは一発勝負なので前準備から気が抜けません。最終的には現場で施工する職人さんに全てを託すことにはなりますが、打合せのたびに細かく確認を繰り返します。

今回は工事開始から一階部分のコンクリート打設までをご紹介します。完成時期は今年の十一月を予定しています。今後の工事内容につきまし

では、ホームページ上のブログ等で随時お知らせしていきたいと思います。実物の出来栄も是非皆さんの眼で確かめにいらしてください。



平成27年3月30日

建物の基礎部分の鉄筋が組み上がりました。一人の職人さんが全ての鉄筋を組みました。



平成27年5月14日

二階の跳ね出しも含め、全ての鉄筋、型枠が設置されました。



平成27年4月16日

基礎のコンクリートが打設されました。見えなくりますが建物を支える重要な部分です。



平成27年5月21日

強度を確保するために一階の壁と跳ね出し部分のコンクリートを同時に打設しています。



平成27年4月19日

一階部分の型枠を建て込み始めました打ち放し仕上げなので外壁の型枠は全て新品です。



平成27年5月21日

打設後はコテでならして平滑にします。表面が滑らかかつ瑞々しく、とても綺麗です。

袖振り合うも多生の縁。みんなで行こう真光寺の団参旅行。

大雄寺参拝と湯西川温泉の旅



今年の団参旅行は、映画『禅』の撮影舞台ともなった栃木県大雄寺へ参拝いたします。

大雄寺（だいおうじ）は、黒羽（くろばね）藩主大関家の檀那寺として歴史も古く、建物は総力や葺きで伽藍の本堂、坐禅堂、庫裡、回廊など室町時代の様式を残す、すばらしい禅寺です。

2日目には、益子酒造や益子焼窯元を観光し、おわりには日本三大稻荷の一つに数えられる笠間稻荷を参拝致します。

見どころ満載の楽しい団参旅行です。是非この機会に檀信徒、縁の会に限らずご縁者の方も、お誘い合わせの上ご参加お待ちしております。



総力や葺きの伽藍は珍しく、一見の価値あります。

大雄寺



湯西川温泉 湯西川温泉 湯西川温泉

夕食は囲炉裏で宴会です！



映画『禅』の撮影舞台へ

その他にも ろばた漬け・益子酒造・益子焼窯元笠間稻荷と盛りだくさんです。移動も負担の少ない栃木県ですので、是非この機会に真光寺団参旅行を体験してみてください。

- 寺務所からお知らせ
- ・虫除けスプレーをご準備しました。寺務所内に置いてあります。お参りにご利用ください。使用時は必ず屋外でスプレーをしてください。
 - ・カラスがいたずらをしています。境内に例年以上にカラスがいるようです。たまに墓地にいたずらをしています。なるべく荒らされないように気を付けています。見つけた場合にはご理解のほどお願い申し上げます。
 - ・樹木葬お参りのご案内。
 - ①お花の植えつけ範囲が広範囲に及ぶ場合があります。どうかお隣へのご配慮をお願い申し上げます。
 - ②お線香はくれぐれもご遠慮ください。
 - ③観音堂のろうそくは消してから退室をお願いいたします。
 - ④墓地の手押しポンプは、その日初めて使う方は水が出ません。備え付けのペットボトルの水を入れてから（呼び水）数回漕いでください。ペットボトルに再び水を入れておいてください。
- お願いばかりで恐縮ですが、何卒よろしく
お願い申し上げます。

上総自然学校（里山再生活動）

イベント日程



- ★『稲刈り』
 - ・ 九月十二日（土） 十時～十六時
 - 十三日（日） ※各日帰り
- ◎『トンボの観察会』
 - ・ 十月三日（土） 十三時～十六時
- ★『収穫祭』
 - ・ 十月十日（土） 十時～十六時
 - 十一日（日） ※各日帰り
- ☆『サツマイモ掘り&焚き火』
 - ・ 十月二十四日（土） 十三時半～十六時
- ◆『紫米稲刈り』
 - ・ 十一月七日（土） 十三時～十六時
- ◎『キノコの観察会』
 - ・ 十一月八日（日） 十三時～十六時
- ☆『干柿作り』
 - ・ 十一月十四日（土） 十三時～十六時
- ★『里山で忘年会』
 - ・ 十一月二十八日（土） 十三時～十八時

＜参加費＞

各イベント名の上にある記号です。

- ★ 大人二千円／小学生千円
- ◆ 大人千円／小学生五百円
- ☆ 八百円
- ◎ 五百円

＜申込み方法＞

参加される方の
 ①氏名②住所③連絡先④生年月日
 ⑤血液型⑥緊急連絡先（ご本人様
 が怪我をした時などの連絡先）
 を明記の上、メール・ファックス・
 電話でお申込みください。（連絡先
 は最後のページに記載があります）



谷津田で栽培されたとても甘い餅米（つきみもち）で搗いたヨモギ餅。餅米の評判が良いので今年栽培面積を増やしました。

今年春は暖かい日が続いたせいかホタルが
 出始める時期が例年より早かったようです。
 自然学校で行っているイベントのほとんど
 が里山での活動になります。つまり雨が降
 ってしまうと開催中止となります。昨年度
 は自然学校にとっては、とてもお天気に恵
 れた年でした。平日に雨が降り続いた週でも
 イベント当日は晴れてくれることが何度も
 ありました。おかげで雨が原因で開催中止
 になったことは二度だけでした。逆に今年
 度はお天気に恵まれていません。開始時間
 を遅らせるなどの対応で開催中止は免れて
 いますが、なかなか苦戦を強いられています。
 秋には「稲刈り」「収穫祭」など、たく
 さんのイベントを予定しています。その頃
 には去年のよう
 うに当日は晴れてくれな
 いかと願う今日この
 頃です。（上総自然学校担当 糸田）



畦塗りイベント時に種まきした苗。1ヶ月経ち立派に育ちました。種をまいた本人もご満悦です。



みんなで裸足になって行う田植え。初めは泥の感触を気持ち悪がっていた子供達もイベントが終わる頃には泥だらけになって走り回っていました。



自然学校のお米作りイベントは畦塗りから。クワの使い方に悪戦苦闘しながら、畝を高く太く塗っていきます。



毎年恒例になっているタケノコ掘り。今年も檀家さんの竹林にてたくさん掘らせていただきました。



巨木トレッキングで見つけたカンアオイ。葉の陰に隠れてひっそりと花が咲いています。



水路の生き物観察。真剣な様子で先生の説明を聞いています。この日はドジョウ、スジエビトウキョウサンショウウオなどが観察できました。

里山の生物

モートンイトトンボ



(5/22撮影 雄)

トンボ目イトトンボ科
モートンイトトンボ属

♂全長23-32mm, ♀全長22-31mm, 卵期間は1~2週間程度、幼虫期間1年程度。幼虫で越冬する。成虫は5月から7月下旬ころまで見られる。♂は成熟すると腹部の先端が鮮やかなオレンジ色になる。平地~丘陵地の低湿地や湿田に生息する。泥深い環境を好み、無農薬の水田で発生する事も多い。休耕田が湿地化した産地では、乾燥化や埋立てにより消滅することも珍しくなく、本種の保護には、発生している湿地の保全が不可欠である。

千葉県レッドリスト・B
(重要保護生物)

お米半額以下セール中です！



里山米(残り150kgほど)

【農薬】いもち病予防の種子消毒のみ

【肥料】有機肥料

【精米】1時間かけて低温で自家精米

【価格】□白米 2kg袋 ~~1300円~~ → 650円 ・ 5kg袋 ~~3000円~~ → 1500円
10kg袋 ~~6000円~~ → 3000円
□玄米 2kg袋 ~~1200円~~ → 600円 ・ 5kg袋 ~~2750円~~ → 1250円
10kg袋 ~~5500円~~ → 2500円

☆玄米の残留農薬検査の結果(自主検査)
250項目の農薬 検出せず

☆玄米の放射線測定結果(自主検査)
ヨウ素・セシウム134・137検出せず(検出限界値 1ベクレル/kg)

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

【ご注文方法】

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④白米か玄米 ⑤数量(2kg以上1kg単位)

以上を明記して、FAX・電話・メールにてお申込みください。
(連絡先は 最後のページに記載あり)

人の終末儀礼と、葬送について

「お葬式ごっこ」に見る葬儀の形

住職 岡本和幸

お寺で生まれ育った子供は、小さい時からお葬式をさせられます。今は少ないようですが、親である師匠につれられ、小僧としてお檀家さんのお葬式を勤めたという話は昔からよく聞きました。私の場合は親が早くに亡くなったのでそういう体験はあまりありませんが、小学生の時に学校で飼っていたウサギやチャボが野犬に襲われて死んでしまった時、同級生から「お前はお寺の子だからお経を読んでくれ」と頼まれ、その場で葬儀をしたことがあります。お葬式ごっこという大人を真似ての遊びということだけではなく、かわいがっていたものが死んでしまった時、何かできることをしてあげたくて、仲間たちは私にお経を読むように依頼したのだと思います。かわいがっていたものが死んでしまったというケースでは、犬や亀の葬儀もやりました。そういう場合でなくても、アリの葬儀やヘビの葬儀、セミの葬儀なども行いました。子供というものは残酷で、身の回りの生き物を興味本位に殺してしまいます。しかし殺してしまった後には、どうしようもない罪の意識に苛まれます。そうした罪の意識からか、死んでしまった生き物のたたりを恐れてか、ずいぶんいろいろなお葬式でお経を読まされたことを思い出します。子供は身近な生き物の死を体験することで、命について学んでいるのだと思います。人が死と向き合うこ

との原点がこのあたりに潜んでいるのではないかと思うのです。

近年、葬儀のあり方について語られることが多くなつてまいりました。葬儀を司る僧侶の眼からみると、マスコミが騒ぐほどの変化は感じられませんが、なぜなら葬儀は、残された方の悲しみの心や、故人のために無力ではあるけれど何かをしてあげたいという思いがエネルギーとなつて行われるものだからです。人を失うことの悲しみや、何もできないけれどせめてできることをしてあげたいという気持ちは、現代においても少しも変わりません。よく今の若い人は満足な供養などできるかどうかともわからないと心配をなさる方がいますが、私の見る限りでは、むしろ若いときに人を失うと心が純真なだけに、悲しみや故人に対する思いも強く、すべてをできる限りきちんとしようとする方が多いように思います。子供を失った方はさらにその傾向が強くなります。古来、仏教の僧侶は葬儀にかかわりませんでした。しかし今現在、中国でも韓国でも、上座部仏教の国タイでもスリランカでも僧侶は葬儀を司っています。なぜそうなのたのかといえば、人々が僧侶の力を借りれば自分の気持ちや故人に伝わるのではないかと、極楽へ導いてもらえるのではないかと考えたからではないかと思います。死は人を不安に陥れますが、そこに宗教者が介入することで悲しみや心の傷は次第に癒されていきます。それは仏教に限らず、古く東西に共通した観念ではないかと思ひます。

ぬということがどういふことか、日ごろからきちんと理解しているかといえ、そんなことはないのではないかと思います。まして昨日まで元気だった人が亡くなったような場合は心の整理がなかなかできません。人が死ぬということは、離れ離れになって会えないこととはまったく違います。残された人の胸には「あのときああしておけばよかった」「あんなこと言わなければよかった」という思いが去来し、何かにつけ自分を責めたりします。もう二度と会えないということは、私たちの心に深いダメージを与えるのです。葬儀から三回忌に至るまでの葬送儀礼は、その悲しみを軽減し、気持ちの整理をしていくようにプログラムされた昔の人の英知の結晶です。昔の葬儀では、喪主は何をしなくとも隣組や親族が仕切ること、すべてがうまく運んでいくようになっていました。そして四十九日まで故人は遺族の近くに留まると考えられていたので、遺骨を家に安置する風習もあります。今でも一部の地域には残っています。七日ごとに僧侶が呼ばれて読経をし、供養を重ねていきます。お経が終わって僧侶が遺族たちと茶飲み話をすることも、遺族の心のケアの一助になったのではないかと思います。このころまでは遺骨を安置している部屋からガタガタ音がしたとか、夢枕に立ったなどという話をよく聞きますが、なぜか四十九日の法要が終わるとそういう話はほとんどなくなります。百日は卒哭忌というように、泣くことを卒業する時期とされ、一周忌は親族の喪明け、三回忌は家族の喪明けとなります。そのように、まる二年という期間をかけて、心の空洞が埋められていくように設定されているわけです。

現代社会では、経済活動の範囲が広がったために、親族もかなり広範囲に散らばって住むようになっていきます。本来は日ごろからもっと交流を持てばいいのですが、残念ながらさまざまな事情もあってなかなかできません。ところが葬儀ともしれば、それまで話だけは聞いていたけれど会ったことのなかったような遠縁の人までが現れたりします。そうはいっても葬儀の時にやってくるのは故人かその先祖、あるいは喪主やその家族と何らかの接点を持ち、何らかの思いを伝えたいと思っている人たちです。たとえば以前故人に恩を受けた人などは、この場を逃せば二度と思いをつき出す機会がないという危機感さえ持つて駆けつけてきます。残された家族にとっては、昔の付き合いがあった人との関係など、もう意味がないように思われることかもしれません。しかしそれまで音信不通だった人たちも、遺影の前で手を合わせてお焼香をすることで、自分の中のすまないという気持ちになんとかなおさまりをつけているのです。そのように、葬儀というのは故人が生きてきた関係性をそれぞれが再確認し、それがピリオドを打つべき関係ならば円満におさめるための場でもあるわけです。

葬送の自由を実現するために

さまざまな問題を抱えているとはいえ、日本の社会は世界に例がないほど安定していると思います。年金や健康保険、介護保険などの制度も現状では世界のトップクラスでしょうし、犯罪が増えていくとはいってもそれなりの治安は保たれていま

す。ところが現代の日本社会には不安が渦巻いています。これは高度成長以後の日本が過度な個の自由を追い求めた結果、核家族化や地域社会の崩壊で人との関係性が失われてしまったことに由来するのではないかと思います。そのような社会を反映してか、死んでまで他人様を煩わせるのはよくないというのでごく内輪だけで葬儀を済ませたり、あるいは葬儀そのものをしない方も増えているようですが、このような場合にも当然まわりの人たちの思いは何らかの形で現れます。亡くなった後に、いつ途切れるともなくぼつりぼつりと弔問が続いたり、ある日突然香典や供花が届くのでどうも落ち着かず、お返しをどうするものか頭を悩ませたという方もいます。また年末に喪中の葉書を出したところ、弔問が相次いで正月どころではなかったという話も聞きました。古い友人が亡くなり、葬儀の通知がなかったのでお墓参りをしようと思ったら海に散骨されてそれもできず、家にいつても仏壇もなかったというようなケースもこれからは起こりうる話です。本当にそれでいいのか、私たちはよく考えなければなりません。あまりにも形骸化し、余分な部分がたくさんある現在の葬送儀礼に対する反発が、こうした現象の背景となっていることも事実だと思えます。人が亡くなるという異常事態の中では、お仕着せで不満足であつても、踏襲されてきた型通りに行く方が楽ですし、古来からの知恵に裏付けられた癒しの効果も期待できるという面もあるわけですが、もしもそれを嫌いな自由な葬儀を行いたいという希望を持つなら、相当な準備が必要です。葬儀では家族の思い至らないさまざまな人の思いが交錯します

が、それを無視してしまつたばかりに後顧に憂いを残したり、残された人たちの心に傷を残してしまふ危険性があるからです。

現在の終末儀礼への不満の中で大きな部分を占めているのは、僧侶への不信と、信頼感の欠如だと思えます。あの僧侶に葬儀を頼みたいという遺言のもとに行われる葬儀は、遺族と僧侶の気持ちの重なり、たいいてい暖かく穏やかな葬儀となります。僧侶が故人を良く知っていれば、遺族も僧侶を信頼し、通夜説教などにも積極的に関わり、傾けてくれるので、故人が遺族に残したかった気持ちを代弁できたと思うような場合もあります。ところが都市部などでは僧侶と一般の方々との関係がすっかり失われてしまつていく現状があります。これは僧侶の側に大きな問題があると思います。たとえばお葬式を勤める僧侶が、葬儀やそれに伴う慣習の説明をすることはあまりないようです。慣習にはそれなりの意味があるわけで、一方的に押し付けられるものではなく、それを行う中で意義が確認されてはじめて満足感を得られるのです。口伝が断絶した現代社会の中では、僧侶に説明責任があると思えますが、僧侶側が研鑽を怠っている場合もありますし、逆に僧侶の側から遺族に押し付けている伝統もあります。それらの問題を積極的に解決するためにも、日ごろから積極的に信頼できる僧侶とお付き合いをすることをおすすめします。

やや情けない感もある僧侶に対して、今や葬儀社は二十四時間いつでも来てくれ、葬儀の進行を取り仕切ってくれる遺族の強力な味方と言つてもいいでしょう。遺族と真筆に向き合い、どんな願い

でもかなえてくれます。葬儀のあと墓地の紹介や仏壇購入のアドバイス、さらにお盆が来れば柵のまつり方と、まさに至れり尽くせりのサービスを提供していますが、それは利潤を追求する企業であるがゆえのものです。彼らが教えてくれる儀礼にはかなり間違いがありますし、華美、過分なものもたくさんあります。たとえばお通夜のお返しは本来必要のないのに、丁重な通夜返しをする風習が当たり前になったのは葬儀が商業ベースに乗るようになってからのことです。また、葬儀社の紹介する僧侶の中には葬儀の数をこなすことで生計を立てている方もいるので長いお付き合いを好まず、その後の仏事に支障が出る場合もあります。日ごろから葬送について知識を集め、自分なりの考え方を持っていれば、いざというときに葬儀社の言いなりにならず、より自由に葬送を行うことができると思います。

死を身近に考える

私は人の終末に対し、もっとも大切なのは、皆さ
ん一人一人が自分や身のまわりの人の死について
日ごろから考えることだと思います。縁起が悪い
から死んだときのことは考えないという人がいま
すが、私はむしろ積極的に自分の死について考え
るべきだと考えます。人に迷惑をかけないために
自分が死んだ後のことを考えて準備するのは大
切なことですし、そのことによって自らの不安を
少しでも和らげることができると思います。さら
に死を考えるとすることは、生を考えることにつ
ながるように思います。ただ、どのような終わりを

迎えるかは死ぬまでわかりませんから、死んでし
まったら最後、誰かの世話になるしかない、それは
仕方のないことだと腹をすえることも必要です。
精一杯準備をしたら、あとは後進に託す器量を持
つほうが良いように思います。自分の終末を考え
て日々を過ごすだけでは仏教的に十分とは言えま
せん。自分が死んだ後も子供たちが明るく育つ社
会を目指して生きて欲しいと願います。老人は子
供の鑑です。いざ行く道に暗雲のないように、子
供たちに明るい未来を見せるような死に方をした
いと私は思っています。理想に過ぎないとしても、
最期のひと息まで人々のために生き抜く姿を残し
て死にたいと願っています。

平成二十七年年回表

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
五十回忌	昭和四十一年
百回忌	大正五年

行事予定

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分
費用：3,500円/1回参加
場所：真光寺(参加者が3名以上で開催となります。)

仏師の方にご指導頂き仏像を彫っていきます。
教室では初めての方でもご
参加いただけます。それぞ
れの方に応じたペースで
徐々に立体に取り組みま
す。どなた様でもご参加頂
けます。



丁寧に指導いたします

精進料理と聖典講読の会 《檀信徒・縁の会会員》

日時：7月30日・9月25日・10月26日・11月26日
午前11時～午後2時半
費用：3,000円(昼食付)
場所：真光寺
テキスト：普勸坐禅儀

住職による普勸坐禅儀解
説後、一緒に食事をして、
午後は坐禅や写経をいたし
ます。どちらも老若男女問
わず気軽にご参加申込み下
さい。



住職が詳しく解説いたします

行事予定

山門大施食 《檀信徒》

日時：8月9日（日）午後14時より
恒例の、盆施食法要を行います。
14時より法話、15時より法要。

秋彼岸法要 《檀信徒》

日時：9月20日（日）14時より
秋の彼岸供養を行います。

ご詠歌練習日 《檀信徒・縁の会合同》

7月 21日・28日
8月 4日
9月 8日・29日
10月 13日・27日
11月 17日
12月 未定（忘年会）

場所 真光寺

時間 20時より（10月以降は19時半より）

※ご詠歌はどなたでもご参加できます。気軽にお問い合わせください。

七佛法要・授戒式 《縁の会会員》

日時：7月5日（日） 午前11時より授戒式・月例供養、午後は施食法要を行います。
8月2日（日） 午前11時より施食法要（午前の部）、午後1時半より施食法要（午後の部）
9月7日（月） 午前11時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏を行います。
10月7日（水） 午前11時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏を行います。
11月3日（火祝）縁の会総会 9月下旬頃に、お手紙にて詳細をご案内いたします。
12月7日（月） 午前11時より授戒式・月例供養、大掃除を行います。

※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。午前、午後の方の出席もできます。
※電車・バスで来られる方は送迎を致しますのでお申し込み下さい。送迎時間は次頁に掲載しています。

縁の会合同秋彼岸法要 《縁の会会員》

日時：9月23日（水祝） 11時より
縁の会合同での秋彼岸法要を行います。亡き人、御先祖様の御供養を致します。塔婆をお受けいたします。
また、午後には葬儀セミナーの開催を予定しています。
※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。
※電車・バスで来られる方は送迎を致しますのでお申し込み下さい。送迎時間につきましては午前の送迎時間に準じます。送迎時間は次頁に掲載しています。

真光寺囲碁の会 《檀信徒・縁の会合同》

日時：7月 6日（月）14時集合 ～ 7日（火）13時30分解散
9月 29日（火）14時集合 ～ 30日（水）13時30分解散
12月 9日（水）14時集合 ～ 10日（木）13時30分解散

費用：8,000円 1泊3食 定員10名 場所：真光寺

静かなお寺で自由に囲碁を打って頂き、息抜には里山散策などもできます。夜は宴会で僧侶と語り合ひましょう。初心者の方大歓迎です。（住職も初心者です）。お電話等でお申し込み下さい。

紫陽花の会 《檀信徒・縁の会合同》

日程：7月23日（木）・9月18日（金）・10月13日（火）・11月20日（金）

時間：午前11時より午後2時半解散

費用：1,000円 昼食 精進料理

場所：真光寺

紫陽花の参道造りから改名し《紫陽花の会》といたしました。1年を通して樹木の管理、剪定、掃除など境内整備をご協力して頂く会です。昼食は精進カレーを召し上がって頂き、午後からは真光寺畑の野菜を収穫したり、味噌造りや梅酒造り、真光寺の環境をふんだんに使った行事を計画致しますので是非、ご参加下さい。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・ 上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時07分着
- ・ 下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・ 品川発9時30分→袖ヶ浦BT10時15分着
- ・ 横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・ 川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着
- ・ 新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

【平日】

- ・ 品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時10分着
- ・ 横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・ 川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着
- ・ 新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

□お車の方

10時40分頃までにお越し下さい。

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・ 上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時06分着
- ・ 下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時01分着

□バスの方

【土日祝】

- ・ 品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・ 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時39分着
- ・ 川崎発12時00分→袖ヶ浦BT12時49分着
- ・ 新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時43分着

【平日】

- ・ 品川発12時15分→袖ヶ浦BT13時00分着
- ・ 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時39分着
- ・ 川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時34分着
- ・ 新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時43分着

□お車の方

13時10分頃までにお越し下さい。

お花をお供えいたします

樹木葬墓苑にお花をお供えいたします。

お参りに来るのが難しく、気になっている方などは是非ご相談ください。

●お墓の碑のまわりにお花を10ポット程度植栽いたします。（碑1周分）

●ご希望があれば、お花を植えた後のお墓の状況を写真にしてお送りいたします。

●費用：1回3000円程度のお布施（花代込）
（お布施のお納めの方法はお問い合わせください。）

・1年を通じてのご希望もお伺いいたします。

・普通墓地もご希望に沿って対応できますので、まずはご相談ください。

葬儀セミナー

《檀信徒・縁の会合同》

日時：9月23日（水祝）13時半より

費用：無料

大変好評だった葬儀説明会の第2回目です。

前回、満席で入れなかった方、前回の内容を確認したい方、この機会をご利用ください。葬儀の具体的な内容から、見積りまで大変詳しく知ることができます。要事前申し込み。

・座席数が限られています。縁の会の方はお彼岸法要からのご出席をお願いいたします。

表紙：小瀬 佳伸（プロカメラマン）

2014年10月撮影 偶然現れた虹。

原画は山内に飾ってあります。



各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414（代表） TEL 0438-75-7365（縁の会事務局） FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp（縁の会）

satoyama@shinko-ji.jp（上総自然学校）